

レディース委員会

2019 年度レディース委員会主催第 2 回情報交換会実施報告

- 1 日時・場所 2019 年 11 月 23 日（土）14:00～16:00・日本スポーツマンクラブ
- 2 出席者 艇種別・外洋・県連・階層別団体関係者、JSAF 関係者 計 27 名
- 3 議事内容

第 1 部 日本フェンシング協会理事・弁護士 井口加奈子氏による講演会

◎各競技団体共通の問題に対して

・生涯スポーツとして定着させる練習や大会の場がなかったので、現役(20 代～30 歳前後)を引退した後の競技者の発掘とベテラン選手権大会という大会を、全国で開催できるようにした。

◎女性競技者特有の問題に対して

- ・家庭や家族との両立を考え、家族で参加できる練習場を提供する団体が増えている。
- ・競技者以外にも競技と関われる環境(指導者・審判員・大会運営)があることを提案

◎今後に向けて

女性役員育成プロジェクトを立ち上げ、協会のガバナンスや人脈づくりなど将来を見据えて学んでいくシステムを構築しつつある。スポーツの周りに女性がいれば子どもが集まり易く、それが将来の競技人口増加に繋がると思う。普及活動に女性はキーマンとなりうる。

第 2 部 参加者による意見交換

三つのグループに分かれ、昨年の会で見えてきた共通の課題について意見を交換し、最後にそれぞれのグループで出された意見を互いに発表し合う形態をとった。

◎卒業後に一度ヨットから離れるとほとんど戻らない実情について

- ・途切れないプログラムの構築と戻りやすい環境整備が必要。伊藤園カップのような身体一つで会場に行けばヨットに乗れるような機会がたくさんあるとよい。みんなが協力して全日本学連加盟大学の O G 戦など企画してみても良い。
- ・いきなり競技に戻るのはハードルが高いと考える女性も多い、大会運営のボランティアなど、不定期や短期でヨットに関われる機会を増やしていく。
- ・体験の場を提供して親子で参加してもらおうとよい。子どもや既婚男性のヨットの参画の可否も、母であり妻である女性が握っている場合が多いので普及にも繋がる。

◎女性の普及拡大、今後に向けて

- ・今年の国体ではママさんセーラーの増加が目立った。国体等ではチャイルドルームも定着してきたが、日常的には解決されない。女性がやりやすい環境の整備が急務だと思う。
- ・セーリングはまだマイナーなスポーツ。いろいろな体験をそれぞれの団体が増やしていくことも大事。神奈川県下や藤沢の小学校では授業の中で体験や啓発活動を取り入れているとも聞いている。各水域でもはたらきかけができるのでは。
- ・ロコミにしてもネットにしても若い世代を取り込むためには、同世代からの働きかけが重要だと思う。若い世代に発信者となってもらう取組を。

最後のアンケートでは、「女子に特化して話し合う場があることが大事。来年も参加したい。何か自分にもできることがあります。」など、高評価の感想をいただきました。